

授業概要

子どもの表現に関わる資質・能力をバランスよく育成させるためには、造形遊びや工作の活動、絵や立体の中で、子どもが納得するまでつくらせていく。特に再構成（つくり、つくりかえ、つくる）を満足のいくまで持たせる学習活動が必要であろう。このことは造形指導をする指導者にも、幅広い経験と深い学びが必要であると考えられる。本講義では造形活動の指導・実践に必要な、様々な材料・用具の取り扱いについて理解を深める。また、幼児・児童期における発達段階の理解と幅広い造形の基礎技能の習得を図ることをねらいとする。

授業計画

第1回	授業ガイダンス（子どもの遊びと造形表現）
第2回	子どもの絵の発達段階と様々な表現（観察画・創造画・生活画ほか）
第3回	題材研究1：フロッタージュ（こすり出し）
第4回	題材研究2：ドリッピング（垂らし絵）とパチック（はじき絵）
第5回	題材研究3：スパッタリング：型を用いたグラデーション
第6回	題材研究4：アルミハクを使った立体動物オブジェ
第7回	題材研究5：芯材を使った粘土制作① 粘土の特性と種類
第8回	題材研究5：芯材を使った粘土制作② 芯棒について、量塊、動勢
第9回	地域の美術館の活用について（鑑賞教育）、表現及び鑑賞の学習指導と評価について
第10回	グループワーク1 線・面材を用いた表現：つなげて楽しむ道づくり①（主題決め）
第11回	グループワーク1 線・面材を用いた表現：つなげて楽しむ道づくり②（並べる・つなぐ）
第12回	グループワーク2 面材を活用した立体影絵①（活動のアイデア・材料の組み合わせ）
第13回	グループワーク2 面材を活用した立体影絵②（題材づくり・色と形の工夫）
第14回	グループワーク2 面材を活用した立体影絵③（仕掛け・動きの演出と舞台）
第15回	グループワーク2 面材を活用した立体影絵④（発表鑑賞会）
第16回	まとめ（筆記試験又はレポート提出）

到達目標

- ・図画工作科の学習環境とその運営、施設・設備に関する環境の配慮について理解する。
- ・表現及び鑑賞の学習指導と評価について理解を深め、造形表現に関する知識や基礎技能の習得を図る。
- ・造形活動を通して、様々な材料用具の正しい扱い方と安全指導を身につける。

履修上の注意

- ・造形活動で用いられる様々な材料用具（工作用紙・クレヨン・絵の具等）は、各自が準備することになる。詳細は授業内で随時伝える。
- ・学外活動又は外部講師による講演授業の場合もありえる。

予習・復習

学生自身が造形活動を楽しみ、豊かな感性を育てることが求められる。そのための準備・努力を惜しまないこと。主体的かつ授業外においても、造形活動に取り組むことを期待する。

評価方法

個人・共同製作における持ち物の準備（20%）。作品の期限内における提出の有無と内容（40%）。学習態度、協調性（40%）

テキスト

「よくわかる図画工作科なっとく新学習指導要領 授業への生かし方」  
 編著 小林貴史/北澤俊之/小林恭代/ 開隆堂